

2014（平成 26）年度

事業計画

■ ■
理事会は 2012（平成 24）年度を起点とする「中期計画」を決議した。計画では「学園の『使命』 MISSION および『将来構想』 VISION」を再確認し、同時に知識基盤社会への移行とグローバル化が加速する世界の状況を踏まえながら当面 5 年間の教育計画、施設計画、組織計画、人事計画、財務計画を策定している。

2014（平成 26）年度の実業計画は「中期計画」と連動し、学園創立 100 周年に向かうアクション・プランに位置づけて着実に実行するものである。

「中期計画」は、学園の教育目標を「グローバル社会の様々な分野で実践的、主体的な役割を担える創造的で活力ある職業人、広い教養と高い識見を備えた社会人の育成を目標とする。グローバル化が急速に進む世界で活躍する女性の教育に尽力する」と示している。事業計画では、この目標達成のために各部門が具体的な事業に着手し、教育環境の充実に取り組むものとする。

■ ■

学校法人昭和女子大学

学園全体

1. 組織

教職員組織を再編成し、スピード感をもって「中期計画」各事業に取り組める体制を整備する。重複する業務についてはシステムを改善し、効率化と簡素化に努める。

A 教員組織

① 大学部門

副学長職を1名追加して3名体制にする。業務分散により意思決定を早期化し、学長の補佐体制を充実させてガバナンス機能を強化する。

学部長を遂行責任者として重点推進するプロジェクトを担当する。

② 附属校

中学高等学校：中高部全体を統括する統括教頭を置き、その下に中学・高校それぞれの教頭を配置して各教育課程の一層の充実をはかる。

幼稚園：こども園の開設準備室を設置する。

B 職員組織

① 企画総務部

企画総務部を経営企画部と総務部に分化する。経営企画部には秘書担当とNPO担当を置き、さらに大学事務局から設備担当と情報メディア担当を異動する。企画担当は解消する。

② 総務部

新たに総務担当を配置して、大学事務局から業務担当と学寮（東明学林・望秀海浜学寮）および創立者記念講堂を異動する。学園記念・トルストイ室は職務を総務部に引き継ぎ解消する。トルストイ教育は設立予定の教育研究所で研究し、トルストイ協会は新運営体制への支援を検討する。

③ 財務部

財務部へ大学事務局の会計担当を異動し、財務担当、管財担当と3担当制を敷く。

④ 図書館

施設の事務を情報管理担当に移行して総務担当を解消する。

⑤ 大学事務局

学長と大学の研究支援に関する業務を統括する部署とする。

⑥ 教育支援センター

教員系組織や各種委員会と1対1で連携を図れる事務組織を構築する。

教員組織の教務部と事務組織の教育支援センターとを連結し、教務担当の上部組織とする。また、教員組織の学生部と連結する事務組織として学生支援センターを新設し、その下に学生担当を置く。

学生寮の閉鎖に伴い学生寮担当を解消する。

⑦ キャリア支援センター

組織運営の効率化を目的に、進路開発・キャリア開発担当をキャリア支援担当に統合し、進路開発・キャリア開発担当の職務は係レベルの分掌として運用する。
教務担当の管理下に置いたライティングサポートセンターをキャリア支援センターの担当に移行して運営方法を見直す。

⑧ オープンカレッジ

社会・地域連携を推進・担当する部署として地域連携センターを新設し、オープンカレッジを同センター内に組み込む。「キャリアカレッジ」など重点プロジェクトについては、地域連携センターと現代ビジネス研究所、大学事務局学長補佐担当とが密接に連携して推進する。

2. 人事

全教職員が教育活動に専念できる組織を編成するため、各部署に適正な人員を配置する。

- ① 引き続き人件費抑制に努め、人件費比率は52%程度を維持する。
- ② メリハリある人事評価制度と配分システムを構築する。
- ③ FD・SD活動を推進する。

3. グローバル化

国際交流プログラムの充実と各部門のグローバル化により世田谷キャンパスの国際化を目指す。

A 大学

- ① 全ての学科のグローバル化を推進する。
- ② アジアに目を向けて海外協定校を開拓し、留学生の出身地・地域の多様化を目指す。
- ③ ボストン留学・研修プログラムを昭和ボストンと共同で開発して参加学生数を増やす。

B 附属校

- ① 各学校で国際理解教育・実践的英語教育を取り入れたグローバル教育を開発する。
- ② アジアなどでの体験型海外研修を実施する。
- ③ ブリティッシュ・スクールと連携を深め、国際交流・多文化理解の機会を増やす。

4. 昭和ボストンの充実

カリキュラム、学生支援体制、運営組織の見直しと再編成により、昭和ボストンの教育と質の向上を目指す。

A 経営・管理運営体制の強化

- ① 新学長による管理運営体制を整備して、ガバナンスを強化する。
- ② 昭和東京との連携を強めて一体感あるカリキュラム・プログラムを開発する。

B 教育プログラムの充実

- ① 近隣大学の単位修得・履修・聴講するオプションプログラムを開発する。
- ② 地域のボランティアやインターンシップの機会を増やしグローバルな視野を育てる。
- ③ 東京校の教職員を対象とする研修を実施して全学園のグローバル化を支援する。

5. 地域・企業との連携

学園の教育研究資源を提供し、地域や企業と共同で教育研究活動に取り組むことで、社会と一体となり信頼・支持される学園を目指す。

- ① 世田谷区と包括協定を締結し、地域と協働で課題研究に取り組む。
- ② 自治体や地域との窓口となる地域連携センターを設置する。
- ③ 大学生が企業・地域と連携して課題に取り組むプロジェクト研究を推進する。
- ④ コミュニティサービスや地域活動を奨励して、学生・生徒の基礎力を引き出す。
- ⑤ ロールモデルとなる社会人メンターや研究員と学生との交流機会を充実させる。
- ⑥ キャリアカレッジを開校し、社会人女性のキャリアアップと起業を支援する。

6. 施設整備

新たな施設建設は抑制するが、中期計画で予定する新規事業に必要な校舎・設備を整備する。

- ① 世田谷キャンパス北側隣接地を取得して校地面積を拡張する。
- ② 世田谷キャンパス西側に完成した学生会館を、大学専用の学生寮として使用する。
- ③ 幼稚園舎を建て替えて幼小一体型の校舎を建設する。

7. キャンパス美化

施設改修によるアメニティの向上とともに、緊急課題である省エネルギー化に務める。

- ① 段階的に照明器具・空調機器を省エネルギー製品に切り替える。
- ② 外国語併記の案内板を設置して各施設をわかりやすく表示する。

8. 広報

積極的・主体的に教育・経営情報を一般公開して説明責任を果たす。

- ① 多様なメディアを活用して最新情報を提供し、幅広い層に広報活動を行う。
- ② 質の高い入学者を得るために、学園のストロングポイントを強調した募集活動を展開する。

9. 学園の連携・一体化計画

各学校は交流・連携して教育に専念し、社会から支持される学園を目指す。

- ① 学園ならではの「こども園」の保育・教育内容を検討し、必要な手続きを開始する。
- ② 保育園と小学校の接続のあり方を検討する。
- ③ 各学校の枠を超えた教員研修や授業見学制度を整備する。

10. 財務計画

学納金の見直しなどで安定した収入基盤を確立するとともに、科研費等競争的資金の獲得と委託研究費、研究助成金などの資金を積極的に導入して帰属収入の多様化に努める。

- ① 学長裁量費の増額やグローバル基金の積み増しを検討し、パイロット的な事業の推進や学生・教員のユニークな取り組みを支援する。

- ② 成績優秀者への報奨、国際交流の促進奨学金、無利子奨学貸付金を積極的に拡充する。
- ③ 施設設備の維持・拡充は、自己資金と資産売却を含む資産の見直しにより実施する。

大学院・大学

1. 組織の整備・再編成計画

学科のストロングポイントを確認し、カリキュラムの方向性を明確にしながら人事計画を策定する。各資格の有効性を検証して講座数を削減し、カリキュラムのスリム化をはかる。

- ① 地域連携センターを本格スタート
地域との協働プロジェクトや研究、講座の運営窓口となる地域連携センターを本格的にスタートさせて地域と密接に連携する。
- ② 世田谷区と包括協定を締結
本学の人的・物的資源を総合して世田谷区と共同で地域調査や研究、実験的事業に取り組むため、世田谷区と包括協定を締結して関係を強化する。
- ③ 昭和女子大学キャリアカレッジを開校
女性のためのビジネススクール「キャリアカレッジ」を開校して前期は女性起業家コース、後期はステップアップコースを開講する。
- ④ 現代ビジネス研究所の機能を強化
現代ビジネス研究所内に起業後のビジネスを支援するインキュベーションを置く。研究員や企業との協働プロジェクトを奨励し、学生を主体的な学習へと導く。
- ⑤ 現代教育研究所（仮称）開設の準備
トルストイや附属校を含む学園全体の教育研究機関となる「現代教育研究所（仮称）」設置の検討を開始する。
- ⑥ ビジネスデザイン学科でポストプログラムを開始
グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科で第1期ポストプログラムを開始する。また、完成年度までにバランスのとれた年齢構成の教員組織を整備する。
- ⑦ 改組の検討
学生募集では社会ニーズを踏まえた適正な入学定員を設定する。学部再編成や新学部設置の可能性も検討する。

2. 大学のグローバル化

採択された文科省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（旧グローバル人材育成推進事業）」の事業計画に従い、キャンパスやカリキュラムのグローバル化を一段と進める。

- ① 国際交流センターが推進
国際交流センターを中心に全学で支援事業を運営し、計画的にグローバル化を進める。
- ② 昭和ボストンとの一体化
昭和東京と昭和ボストンがさらに一体となり、密接に連携しながらグローバルカリキュラムを開発する。学生がボストン近郊で履修・聴講する協定大学の講座数を増やす。
- ③ 海外協定校との交流
アジアや欧州など世界の国々・地域の海外協定校と連携を深め、交流制度を充実させて交

換留学生数を増やす。

- ④ 海外での活動の場を充実
安全に配慮しながら海外インターンシップやボランティア活動の機会を開拓・開発する。
- ⑤ 外国人学生との協働プロジェクトを実施
日本や海外で多様な文化の学生によるグループのプロジェクト研究・活動を実施する。
- ⑥ 留学生生活をサポート
昭和東京と昭和ボストンに留学アドバイザーや学習アドバイザーを配置し、学生の留学生生活をサポートする。
- ⑦ 外国人留学生の受け入れ
ホームステイなど受け入れ態勢、日常生活のサポート、奨学金制度などを充実させて外国人留学生数を段階的に増やす。
- ⑧ 留学生の受験資格・選抜方法の見直し
海外にいても受験しやすい選抜制度、例えば遠隔システムを利用したグローバル入試などの導入を検討する。

3. 研究活動の推進

- ① 情報の提供
委託研究など外部研究資金の情報を定期的に収集・配信するシステムを運営する。
- ② 資金の獲得
学内研究資源の効率的配分、国や自治体、産業界の研究費の獲得に努める。

4. 学習支援・キャリア教育

社会で必要となる力を「夢を実現する 7 つの力」に示し、グローバル社会で自立し役割を担える人材の育成を目標として学生が持つ力を引き出す。

- ① オナーズクラスの充実
オナーズクラスで学生のロールモデルを育てる。修了者ネットワークを構築し、リーダーシップ発揮の機会を定期的に提供する。
- ② キャリア教育のさらなる体系化
キャリアデザインポリシーに基づき、専門学修とキャリア科目、プロジェクト活動、インターンシップ、メンター、ボランティア、就職支援講座などを体系化して配置し、キャリア支援システムをさらに発展させる。
- ③ キャリア支援の充実
インターンシップ協力事業所をさらに開拓して就業体験の場を拡充する。
積極的に就職活動のサポートにあたり希望者の就職率 100%を目指す。
- ④ 学生支援体制の強化
健康管理センター、学生相談室、基礎教育研究・地域連携・コミュニティサービスラーニング・ライティングサポート・障がい学生サポートの各センター、社会人メンター、現代ビジネス研究所などの各窓口を再配置して学生が活用しやすい環境を整備する。

5. 学生募集

- ① 多様なメディアを活用して情報を積極的に発信し、志願者・入学者数を確保する。
- ② 18歳人口減少期に備え、大幅なカリキュラム改正や改組などで大学の魅力を高める。
- ③ 入試形態別入学者の配分の見直しを検討する。
- ④ 2015年度一般入試を目標にインターネット出願システムを整備する。

附属校

中学校・高等学校

1. 教育改革の推進

中高部将来計画委員会内のプロジェクト別のチームを集約して中高一体の「グローバル化推進委員会」として再編し、スピード感を持って昭和教育のグローバル化に取り組む。

2. グローバル化

- ① 中学校に英語や海外留学が充実したグローバルクラス（仮称）を2016（平成28）年度に設置する。今年度はカリキュラムを精査・研究して新しいプログラムを完成させる。高等学校のカリキュラムも並行して見直し、6年間一体のグローバルプログラムを編成する。
- ② 高等学校で選択制国内外研修旅行を開始。希望によりベトナム、マレーシア、オーストラリア、広島・奈良・京都、沖縄で体験型研修を行い国際理解と平和教育の場とする。
- ③ ユネスコスクールのネットワークを活用し、世界の学校との交流プログラムを開発する。
- ④ 同世代交流やフィールドワークなど、ボストン研修中に生徒が英語を使う機会を増やす。
- ⑤ 全生徒が英語検定を受検し、卒業までに2級以上を取得するよう指導する。
- ⑥ 生徒交換（3日間：派遣3名・受け入れ3名）や英語劇共催など、ブリティッシュ・スクールとの交流を発展させる。

3. 教育力の向上

- ① 外部講師等を活用した教員研修や研究授業・相互評価を実施して教師の教育力向上を図る。
- ② 外部試験の成績を活用し、学校の学力の状況を把握して授業の改善に役立てる。
- ③ 各教科・各学年で電子黒板を活用した授業法や教材を研究・開発し、よりアクティブな授業・教室を実現させる。積極的に研究授業を実施して全教員の教育力を高めていく。
- ④ 一部の教科ではモバイルパソコンを生徒に配付し、ICTを活用した学習法を試行する。
- ⑤ 段階を追って1学年216人とし、教育環境を見直しながら学習指導・支援を充実させる。

4. キャリア教育

将来就きたい職業を自分で調べ、自分で進路を選択できる力をつけるキャリア教育を実践する。

- ① 高校生でサービスラーニングを学習する。事前学習、マナー教育、活動後の振り返りなどプログラムを体系化して社会で必要となる力を引き出していく。
- ② 従来の高大接続を維持しつつ、難関大学への合格者を安定的に輩出する。
- ③ 五修生制度に関する検討会を設置し、制度の主旨に基づいた改善を加える。

5. 保護者との連携強化

- ① 学校評価アンケートを実施して結果を家庭にフィードバックする。

- ② 授業参観等の公開行事の回数を増やして保護者の理解を得る。
- ③ 保護者会など意見を交換する機会を増やす。
- ④ 本校の ESD 教育（社会課題と暮らしを結びつけ新たな価値観・行動を生み出す学習法）活動について家庭に周知するよう努める。

6. 生徒募集

- ① 伝統ある人間教育やグローバル教育を充実させることで、安定した入学者数を維持する。
- ② パンフレットやウェブサイトを更新し、学校のストロングポイントを発信する。
- ③ 新設予定のグローバルクラス生徒を募集する。

小学校

1. 家庭との連携

- ① 教育目的と学習の学習内容を配布して、家庭と連携した教育を実践する。
- ② 働く親支援を目的に、2015（平成 27）年度から学童保育を実施する。

2. 国際的視野の育成

- ① 英語活動を充実させる。専任教員 1 名を追加配置して 3 年生の英語を 1 コマ増加。6 年間総計で 350 コマ実施して 2020 年度の文科省の目標時間数を確保する。さらに研究授業などで昭和小学校独自の英語教育・グローバル教育を確立する。
- ② ブリティッシュ・スクールと協働して文化間交流プログラムを実施する。
- ③ ボストン研修は新しい英語カリキュラムと連動して英語で話すプログラムを充実させる。
- ④ ベトナムをはじめとするアジアの国々の小学生との交流機会を設ける。

3. 教育・学習環境の整備

- ① 研究授業、教材研究、外部研修会への参加を奨励し、教師の教育力向上を図る。
- ② モバイルパソコンを活用した授業など、教師の授業研究・教材開発を奨励する。
- ③ 学童保育の教育・保育プログラムを検討し、来年度からの実施に備える。

4. 児童募集

- ① 現代的ニーズに対応する教育を充実させることで、安定した入学者数を維持する。
- ② 放課後クラブや保育園との連携を図り、新たな入学者を獲得する。
- ③ 男子生徒を増やす。

幼稚園

1. 預かり保育

- ① 預かり保育導入の 2 年目は、多人数の希望者に対応できる体制を用意する。
- ② 新設するこども園との接続・連携準備委に取りかかる。

2. 総合こども園化

- ① 幼稚園教育と保育機能を持つ一体施設設置に向けた事業を計画的に実行する。
- ② 幼稚園と保育園との共同・共催行事などを企画してプログラムの連携を深める。

3. 新園舎の建設

新園舎建築のため、今年度は大学校舎の仮園舎に移動する。

こども園と連携した教育・保育をアピールして園児募集に取り組む。